

指定校番号	29021	学級活動	児童会	○	クラブ活動	学校行事	小学校用
-------	-------	------	-----	---	-------	------	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和小学校	校長	津田 秀司	生徒指導主事	高岡 和也
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『チャレンジ・ランキング大会』**

**取組のねらい『自発的かつ自主的・自治的活動』**

- 異学年集団の中で仲良く、協力し、信頼し支え合う。
- 集団の一員として自分の役割を果たす。
- 学校生活を楽しく豊かにするための活動を、自発的かつ自主的・自治的にやりきる。

**身に付させたい資質・能力**

- よりよい人間関係を築く力
- 集団の一員としての望ましい態度
- 自治的な能力や社会性

**取組の具体的内容『異学年交流』**

○縦割り班（全 20 班）ごとに校内オリエンテーリングを行う。

- 開会式**
- ①班ごとに体育館に整列
  - ②はじめの言葉
  - ③ルール説明



- ⑤各班とも、高学年を中心に、ルールを守って静かに待つ。



- ④オリエンテーリング**  
6年生の考えた 10 種類（ジェスチャーゲーム・カンジャム・バスケットボール・ボーリング・玉入れ・イントロドン・聖徳太子・どれだけ乗れるかな・宝探し・ストラックアウト）のゲームが用意されている教室を回り、得点を積み重ねていく。



聖徳太子



どれだけ乗れるか



ボーリング

## 取組の課題・創意工夫『自主的な計画・準備・運営・振り返り』

- 児童会・6年生が中心になって計画・準備・運営させる等、自主性を大切にします。
  - ①児童会役員から「チャレンジ・ランキング大会」について提案する。  
(代表委員会)
  - ②児童会役員が6年生全員に協力を依頼する。
    - ・係・役割分担の決定をする。
    - ・ルールを決め、全児童に周知し、自分たちで守らせる。
    - ・ゲーム等の準備物作りをする。
- 5年生がオリエンテーリング時のサポートをする。
- 児童自身が活動の評価をし、各班に手作りの賞状を渡す。
- 低学年から6年生へ感謝の手紙を書かせる。



## 取組の成果（効果）『自己存在感の高まり』

- 一人一人の思いや願いを大切にしてい取り組んだことで、自己存在感を高めることができた。
- 協力し助け合って取り組んだり、互いのよさを認め合ったりすることで、共感的な人間関係を育てることができた。
- 内容や役割分担、ルール作りなど自己決定の場や機会を多く設定することができた。
- 自己肯定感が高まった。
- 高学年（6年生・5年生）一人一人が役割を分担し、協力して活動することができた。
- 上級生が下級生のことを思いやり、下級生が上級生をよい手本にしなが、楽しく活動することができた。
- 自分たちで決めたルールを守ることで規範意識が高まった。
- 高学年としての責任や自覚、リーダーシップ等を、6年生から5年生に引き継ぐことができた。

チャレンジ・ランキング大会後アンケート集計 6年・5年 (77人)

1 そう思う                      2 ややそう思う                      3 ややそう思わない                      4 そう思わない

項 目		1	2	3	4
①(6年生)先生の手をかりずに、自分たちで考え計画したチャレンジ・ランキング大会をすることができた。(5年生)来年も、自分たちで考え計画して楽しいチャレンジ・ランキング大会にしようと思った。	人数	54	20	3	0
	%	70	26	4	0
②一人一人の思いやねがいを大切にしたいチャレンジ・ランキング大会をすることができた。	人数	42	29	4	2
	%	54	38	5	3
③高学年(6年生・5年生)一人一人が役割を分担して、協力して活動することができた。	人数	51	19	7	0
	%	66	25	9	0
④高学年(6年生・5年生)が手本となり、低中学年(1~4年生)を思いやりながら活動することができた。	人数	50	25	2	0
	%	65	32	3	0
⑤チャレンジ・ランキング大会中のルールは自分たちで決め、低中学年(1~4年生)に守らせることができた。	人数	38	34	5	0
	%	50	44	6	0
⑥高学年としての責任や自覚、リーダーシップを6年生から5年生に引きつぐことができた。	人数	49	23	5	0
	%	64	30	6	0
⑦チャレンジ・ランキング大会後、あなた自身に達成感(やり切ったぞ)や満足感(やってよかった)がわいてきた。	人数	55	17	4	1
	%	72	22	5	1
⑧この大会を通して、あなた自身が成長したと思いますか。	人数	54	18	5	0
	%	71	23	6	0

## 今後の展開『広げる』

- チャレンジ・ランキング大会で身に付いた力を他教科や日頃の生活に広げていく。
- 特別活動だけでなく、教科・総合的な学習の時間・道徳等の授業においても、主体的な学びを構成し、児童一人一人の自己肯定感を高めていく。

## 他校へのアドバイス『年間を通した取組』

- 特別活動や学校行事が、年間を通して生徒指導の三機能を育むための取組になっていることが大切である。
- 4月:遠足(1年生を迎える会) → 5月:運動会(応援合戦) → 8月:宿泊体験学習(体験学習) → 9月:修学旅行・社会見学(校外学習) → 10月:学習発表会(全校合唱) → 11月:社会貢献活動(地区児童会) → 12月:チャレンジ・ランキング大会(オリエンテーリング) → 3月:6年生を送る会(各学年の発表)